

沖縄語 かわら版

沖縄語を話す会会報

第15号

2011年7月1日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 真正

電話 & F a x 044-988-8065



あかばな一

絵 花田匠子「沖縄語を話す会会員」

「^{おきなわ}沖縄語を話す会」^{はな}月に二回^{かい}集ま^{ちち}て^たね^{けーんあち}勉強会、^{びんちよーかい}品川^{しながわ}ね大崎^{おーさき}をて

- ^{むちか}難^{うちなーぐち}さる^{うど}沖縄口ぬ音-----和田晶子
- ^{うちなーぐち}沖縄口^{かか}とぬ係わい-----花田匠子
- 会報に出てきた語句の説明
- 事務局から

ホームページ <http://www.wwq.jp/p/>

沖縄語教育支援文庫 <http://www.wwq.jp/q/>

うちなーぐちなら はじ
沖繩口習い始めから、な、四年余い成いびたん。

なま くとば くーん また くーあ さ
今やでん、言葉ぬ声出じゃちやい、又、声上ぎたい下

ぎたいすしえー、むちか さいびーくと、なんじ
難儀そーいびーん。

たと
例れー、「やー(?jaa)」、うりから「あー(?waa)」

くーん くと
ぬ声出じゃする事やいびーん。

ま いーちど めーでー
先じえー、息止みて、あんしから、喉 じるぬたば

さくーて、あつたに、いーちん ーん
さくーて、あつたに、息出じゃち見じゃびーしが、

だーたい、ちゆーぢゆー ちから い
だーたい、強々く力入つてさんどんあれー「破裂

おの へん
音」ー、出じらんねーさびーん。

「やー」うりから「あー」出じゃする音んかえー、何

ぬら ね やびらんしが、わ ちら まった
ぬ恨みん無ーやびらんしが、我ん面ー、全 ちわじわ

みーくち くとな
じーそーる目口ぬ如成いびーん。

また
又、「ばーあーちちやいびーんやーたい。」んて言ち、

ぐすーよー ぐえーさち ばー ま
御衆様んかい御挨拶うんぬきゆる場ねー、先じえー、

めーでー あ ちから い くと
喉 じるぬたばさ開きて、力ー、入りらん如「ばー」

んて言ち、くーん ちぢ しくいーち
んて言ち、声出じゃち、あんしから、続きて直ぐ息

と ぬーでー いーちん
止みて、喉 じるぬたばさくーて、あつたに息出じ

やち、「あー」んて言らんどんあれー成らんくと、我ん

めーでー いちゆな な
喉 じろー忙 しく成いびーん。

めー うちなー ちよ く あわ くと しじん
何んち沖繩ん人ー、此ぬよーな哀れーさん如、自然に

めーでー あ へん
喉 じるぬたばさ開きたいくーたいっし、声出じゃ

しゆーすがやーんち、いっぺーふるまさいびーん。

あんすくと、うぬ事ちて、ちやー、羨まさんて思

とーいびーん。

くーあ さ わ なんじ じ
声上ぎたい下ぎたいすしん、我んねー、難儀くん儀

そーいびーん。くーあ
そーいびーん。声上ぎゆんでそーいねー、どく 考ー

じゆー あ し くとく あ
い強さぬ上ぎらんてん済むる所ん、上がたいさび

ーん。いくけーぬ い のー
ーん。幾回ん言ー直しーねー、やまちりて、沖繩口

んあらん、やまどくち いふー な
んあらん、大和口んあらん、異風なむん成いびーん。

うちなー ちゆ ぐすーよー てーじ ち くり くとば
沖繩ん人ぬ御衆様んかえー、大事な聞ち苦さる言葉

な はじ ぐ ぶりーな を
成とーる筈どーやーんち、ちやー御無礼成てー居らん

がやーんて思とーいびーん。

やいびーしが、うちなーくちえ し
やいびーしが、沖繩口ー、いっぺー好ちやいびーく

と、く うちなーぐち びんちよー ちぢ い
と、此りからん沖繩口ぬ勉強や、続きて行ちゆんち

やいびーん。

わ し うちなーぐち てー ちむくり
我んが好ちゆる沖繩口ぬーちやいびーしが、「肝苦

さん」て言る言葉やいびーん。

く くとば えーて ちむや ぞー ちむや
此ぬ言葉ー、「相手ぬ肝病みーねー、胴ぬ肝病むしど

いぬ如、くと えーて しわ
いぬ如、ちやー、まじゆーんさーに相手ぬ心配さがち

ー、うぬ病むし分きゆんで言る肝心どやる。」んて言

らつとーいびーん。

んじゆ さんぐちじゆーいちにち ひがしにほんだいいんさい い
去る三月十一日に「東日本大震災」んて言ち、

まぎねーぬ寄て、ゆ わじやえ う
まぎねーぬ寄て、災ーぬ起くりやびたん。

あんし、やーにんじゆ なみ やーやしち
あんし、家人衆ぬしがり波んかいすびかって、家屋敷

ん汁成たるつ人ぬ達ぬ苦さる事、うりから、「原発」

ぬ故に、ゆい うま ちやー くち くと げんぼつ
ぬ故に、思ーじふらーじ 災ーぬ起くりて、田ん畑

ん生ち物ん置ちきて、むら へん な ちゆ
ん生ち物ん置ちきて、村から出じらんねー成らんっ人

ぬ^{ちゃー}達^{くち}ぬ^{くとうむ}苦^{ちむくり}さ^ゆる^{くどば}事^い思^ねい^ね、「肝^{ちむくり}苦^{さん}」^い言^{くどば}る^め言葉^ぬ

通^とい、「肝^{ちむ}ぬ^{しぬ}忍^らば^らん。」^{うむ}思^とと^いび^ーん。

「肝^{ちむくり}苦^{さん}」^い言^{くどば}る^め言葉^ぬ、何^ま処^{たにぬ}が^なぬ^た他^に人^かん^{かい}かい、

大^{やまどくち}和^さ口^さに、た^だ「か^わい^いそ^う」^いん^で言^うる^ちむ^ええ

と^いび^ーん。

沖^{うちな}縄^{ちゆ}人^いぬ^い言^とみ^えし^える^通い、^とち^やー、^まじ^ゆーん

さ^ーに^し心^わ配^さが^ちー、^ちう^むぬ^や肝^わ病^むし^きゆ^んで^い言^うる、

肝^{ちむぢゆ}清^くら^さる^心、^む持^ぶち^ぶ欲^{さん}で^い思^とと^いび^ーん。

勉^{びんちよー}強^い会^{くす}ぬ^よ御^う衆^ち様^しと、^う沖^ち縄^し口^しっし^し「ゆ^んた^く」^ぬ成^な

い^る如^ぐ、^く此^りか^らん^うみ^はま^て、^びん^ちよ^ー勉^ぶ強^しー^ぶ欲^さい^び

ー^ん。



ごーやー

我^わ達^たや、^く此^なぬ^な夏^ねー、^でん^け電^き気^ー、^あん^すか^ち使^ぐーん^如

「^み緑^{どり}の^ちカー^てン」^ち作^くゆ^んち^やい^びー^しが、^ごー^や

ー^ぬ苗^こ買^ちて^っ来^あ、^ち植^あー^やび^たん。

ご^ーや^ーぬ^ふ葉^ぬむ^てー^ゆる[「]緑^{どり}の^ちカー^てン[」]さ^ーに

し^だむ^んち^やい^びー^ん。^また、^まぎ^な生^むい^物ぬ^成い^ねー、

ご^ーや^ーち^ちゃ^んぷ^るー^作て、^か噛^たむ^し楽^しむ^んち^やい

び^ーん。

「ご^ーや^ーち^ちゃ^んぷ^るー」^いん^で言^{くどば}る^め言葉^い言^{くどば}し^ん、^く心^{くり}得^ら

ら^んど^んあ^れー^成い^びら^んや^ーたい。

声^こや^あ上^ぎたい^さぎ^{たい}さん^如、^ま真^まっ^とー^い言^いち^見じ

や^びら。

「ご^ーや^ーち^ちゃ^んぷ^るー」^いん^で言^{くどば}る^め言葉^い言^{くどば}し^ん、^く心^{くり}得^ら

ら^んど^んあ^れー^成い^びら^んや^ーたい。

声^こや^あ上^ぎたい^さぎ^{たい}さん^如、^ま真^まっ^とー^い言^いち^見じ

沖^{うちな}縄^{ちゆ}口^いと^ぬ係^わい 花^{はな}田^た匠^{じゆ}子^こ (相^さ模^も原^{げん}市^し)

沖^{うちな}縄^{ちゆ}口^い習^はい^始み^たる^訳、^うん^ぬき^れー^やー^んで^い思^う

と^いび^ーん。

小^{しよ}学^が校^こ六^く年^{ねん}生^{せい}ぬ^頃、^へい^わが^くく^{しゆ}ー^ゆい^はじ^み

て^い沖^{うちな}縄^{ちゆ}か^い行^いち^やび^たん。

う^ぬ旅^{たび}を^て、^わた^たー^うち^なー^いく^さく^ど戦^{せん}ぬ^事に^ちー^て、

い^っぺ^ー勉^{びんちよー}強^さび^たん。

我^わ達^たや、^か嘉^か手^て納^な基^き地^ちか^いん^い行^いち^やび^たし^が、^なー、

飛^ひ行^こ機^きぬ^音ぬ、^どく^ゆん^がし^まさ^ぬ、^しん^しー^うは^なし^え

聞^ちゆる^事ー^成い^びら^んた^ん。

あ^んし、^うぬ^飛行^機ー、^あ後^ちから^あ後^ちから^飛て^来や^ーび

た^ん。

沖^{うちな}縄^{ちゆ}を^て、^暮ら^ちよ^ーみ^しえ^ーる^っ人^ぬ達^や、^め日^に、

此^くぬ^ゆん^がし^まさ^る音^う聞^ちよ^ーみ^しえ^ーく^ど、^いち^で

事^じな^く事^とや^さや^ーん^で思^うや^びた^ん。

「ひ^めゆ^り平^{へい}和^わ祈^き念^{ねん}資^し料^{りょう}館^{かん}」^をて、^わた^たー^うち^なー

を^てぬ^戦ぬ^いち^やし^ー事^と、^いる^いる^うは^なし^をが

一^ち肝^{ちむ}病^やま^びた^ん。

元^{むと}ひ^めゆ^り学^が徒^と隊^{たい}ぬ^み宮^{みや}良^らル^りさん^ぬ御^う話^はん^をま^び

たん。いっぺー^{にんい}念入^うつて御話^う そーみしえーいびーた
ん。

くぬ^{あど}後、「^{おきなわけんへいわ きねんしりよーかん}沖縄県平和祈念資料館^い」かい^い行じ、^{せんば}千羽
鶴^{づる}うさぎやびたん。

「^{へいわがくしゅー}平和学^{たべ}習^は」ぬ^は旅^は一、あま^は走^はいく^はま^は走^はいさびたし
が、^{なんじよーし}南^{いちゆかじごー}城^い市^いな^いかい^いある^い系^い数^い壕^いかい^いい^いん^い行^いち^いや^いび^いたん。

^{びよーいんごー あどんー}病^{ごー}院^{なーか}壕^{くら}ぬ^{くら}跡^{くら}見^{くら}ち、^{くら}う^{くら}ぬ^{くら}壕^{くら}中^{くら}一、^{くら}暗^{くら}ぞー^{くら}り^{くら}と^{くら}一^{くら}た^{くら}
くと、^{ちぶる}頭^{かいちゆーでんとーち}ん^ちかい^ち懐^ち中^ち電^ち灯^ち付^ちきて、^ちよ^ちー^ちん^ちな^ちー^ちよ^ちー^ち
ん^ちな^ちー^ち入^ちち^ち行^ちち^ちや^ちび^ちたん。

あんし、^{わったー}我^{ごー}達^{なーか}や、^{ごー}う^{なーか}ぬ^な壕^なぬ^な中^なを^なて、^なリ^なコ^なー^なダ^なー^な吹^なち、
ま^なー^なし^なみ^なそ^なー^なち^なる^なっ^な人^なぬ^な達^なぬ、^な御^なし^なじ^な前^なん^なかい^ない^な悔^な
や^なみ^なう^なん^なぬ^なき^なや^なび^なたん。

わ^わ我^わん^わね^わー、^わう^わぬ^わ旅^わを^わて、^わ思^わた^わる^わ事^わや^わー^わび^わー^わし^わが、
^{うちなー}沖^い繩^くを^くて^くぬ^く戦^くに、^く苦^くさ^くし^くみ^くそ^くー^くち^くャ^くる^くっ^く人^くぬ^く達^くぬ、
^くく^くち^くぬ^くわ^く分^くか^くて^く来^くや^くー^くび^くたん。^く戦^くを^くて、^くち^くャ^くー^くる^く哀^くり^く
が^くさ^くら^くや^くー^くん^くで^く思^くい^くね^くー、^く肝^くい^くち^くャ^くさ^くい^くび^くー^くん。

く^く此^くぬ^くよ^くー^くな^くくと^く思^くい^くが^くち^くー、^くっ^く人^くぬ^く肝^く病^くむ^くし^く分^くかい^く
る^く人^く間^くん^くかい^く成^くれ^くや^くー^くん^くで^く思^くゆ^くる^く如^く成^くい^くび^くたん。

^{わらび}童^{へいわがくしゅー}そ^うー^うい^うに「^う平和^う学^う習^う」^うし^うー^うが^う沖^う繩^うかい^う行^うじ、
^{あど}う^あぬ^あ後、^あ我^あん^あね^あー、^あ三^あ十^あ成^あた^ある^あ歳^あに、^あ何^あが^あや^あら^あ体^あぬ^あ
よ^あー^あな^あ成^あて、^あ家^あを^あて^あ眠^あと^あー^あい^あび^あー^あたん。

う^うん^うに^うー^うま^うん^うぐ^うる^うぬ^う事^うや^うい^うび^うー^うし^うが、^う思^うー^うじ^うふ^うら^うー^うじ^う
ラ^うジ^うオ^うか^うら^う三^う線^うぬ^う音^うぬ^う聞^うかり^うて^う来^うや^うー^うび^うたん。

な^なー、^ない^なっ^なぺ^なー^なあ^なな^なが^なち^なさん^なあ^ない、^な響^なち^なゆる^な音^なぬ^な何^など

ん^んで^んん^ん言^んら^んら^んん^ん肝^んん^んや^んー^んや^んー^んと^ん成^んい^んび^んたん。

あ^あん^あさ^あー^あに^あ沖^あ繩^あぬ^あ事^あに^あち^あー^あて、^あ又^あん^あ何^あが^あな^あ勉^あ強^あし^あー^あ
^ぶ欲^ぶさん^ぶで^ぶ思^ぶゆ^ぶる^ぶ如^ぶ成^ぶい^ぶび^ぶたん。

^{くじゆ}去^く年^くぬ^く五^く月^くに^く狛^く江^く市^くを^くて、^く三^く線^く習^くー^くす^くる^く所^くぬ^くあ
ん^んで^ん言^んし^ん分^んか^んて、^んん^んま^んを^んて、^ん「^ん沖^ん繩^ん語^んを^ん話^んす^ん会^ん」^んぬ^んあ
ん^んで^ん言^んる^ん事^んん^ん分^んか^んや^んび^んたん。

^{くじん}御^く縁^くぬ^くあ^くて、^く國^く吉^く真^く正^くさん^くと^く御^く行^く逢^くさ^くび^くて、^く沖^く繩^く口^く
なら^ん習^んい^んる^ん事^ん成^んい^んび^んたん。

^{なまなら}今^は習^はい^は始^はみ^はて、^は一^は年^は余^はい^は成^はい^はび^はー^はし^はが、^は沖^は繩^は口^はぬ^は音^は
ー、^はい^はっ^はぺ^はー^は難^はさ^はい^はび^はー^はん。

^{わた}腸^{すく}ぬ^{どー}底^{ふび}か^{くー}ら^{くー}胸^{くー}い^{くー}っ^{くー}ぺ^{くー}ー^{くー}響^{くー}ち^{くー}ゆる^{くー}声^{くー}や^{くー}ん^{くー}ね^{くー}ー^{くー}す^{くー}く^{くー}と、
^{わた}腸^{ちか}ぬ^{ちか}ち^{ちか}る^{ちか}使^{ちか}ゆ^{ちか}ん^{ちか}ね^{ちか}ー^{ちか}さ^{ちか}び^{ちか}ー^{ちか}ん。

^{うちなー}沖^い繩^く口^くー、^いい^くっ^くぺ^くー^く人^く間^くら^くー^くさ^くる^く味^く糸^くー^くぬ^くあ^くい^く、^く又^く、
^{ちむ}肝^いん^いや^いー^いや^いー^いと^い成^いい^いる^い言^いー^いよ^いー^いぬ^い多^いく^いあ^いい^いび^いー^いく^いと、
い^いっ^いぺ^いー^いい^いー^い心^い地^い成^いい^いび^いー^いん。^いあ^いん^いす^いく^いと、^い沖^い繩^い口^い
ー、^いい^いっ^いぺ^いー^い好^いち^いや^いい^いび^いー^いん。

^{なま}今^うー、^うあ^うん^うす^うか^う沖^う繩^う口^うー、^う分^うか^うい^うび^うら^うん^うし^うが、^う此^う
り^うか^うら^う沖^う繩^う、^う大^う和^うぬ^うし^うー^うじ^うゃ^う方^うか^うら^う色^う々^う習^うて^う行^うち^うや^う
び^うー^うく^うと、^う御^う衆^う様^う宜^うさ^うる^う如^う御^う願^うー^うさ^うび^うー^うん。

う^うり^うか^うら、^う我^うん^うね^うー、^う会^う報^うな^うか^うい^う絵^う描^うち^うよ^うー^うい^うび^う
ー^うし^うが、^う此^うり^うか^うら^うん^うい^うふ^うや^うて^うん^う絵^う描^うち^うゆ^うん^うち^うや^うい^うび^う
ん。^う沖^う繩^う口^う広^うみ^うー^うる^う為^う成^うい^うる^うむ^うん^うや^うれ^うー、^うい^うっ^うぺ^うー^う嬉^う
さ^うい^うび^うー^うん。^う「^う沖^う繩^う語^うを^う話^うす^う会^う」^うを^うて、^う御^う衆^う様^うん^うかい^う

^{あーちえー}御^あ行^あ逢^あ拜^あて、^あび^あん^あち^あよ^あー^あは^あじ^あ
御^あ行^あ逢^あ拜^あて、^あ勉^あ強^あ始^あみ^あら^あり^あー^ある^あ如^あ成^あて、^あ有^あり^あ難^あ一^あ事^あ

やんで^{うむ}思とーいびーん。

(^う終わい)

会報に出てきた語句の説明

- ・^{ぬーごー}喉 じる：声帯。
- ・たばさ：間。
- ・くーゆん：閉じる。
- ・あつたに：にわかに。不意に。
- ・だー(たい)：失敗した時にも言う。しまった。
- ・さんぞんあれー：しなければ。
- ・^ん出じらんねーさびーん：出ないようです。
- ・わじわじーそーん：まさに怒りが発せんとしている。
- ・^{みーくち}目口：表情。顔つき。
- ・^いばーあーちち：よい天気。
- ・うんぬきゆん：申し上げる。目上に言うことの敬語。
- ・^い言らんぞんあれー^な成らん：言わなければならない。
- ・いっぺー：たいそう。非常に。たいへん。
- ・^ふるまさん：不思議である。
- ・^{なんじ}難儀くん^じ儀すん：多くの苦勞をする。
- ・どく：あんまり。
- ・やまちりゆん：ごたごたする。混乱する。
- ・ちゃー：いつも。
- ・まじゅーん：一緒(に)、共(に)。
- ・まぎねー：おおきな地震。
- ・しがり^{なみ}波：津波。
- ・すびかりゆん：ひきずられる。引っぱられる。
- ・^{やーやしち}家屋敷ん^{しるな}汁成たん：家屋敷もなくなった。
- ・^{うま}思ーじふらーじ：思わず。思いがけず。
- ・^{ちむ}肝ぬ^{しぬ}忍ばらん：心に忍びない。
- ・ちむえー：意味。わけ。理由。
- ・うみはまゆん：はげむ。熱心に努力する。
- ・あんすか：それほど。
- ・むてーゆん：茂る。
- ・しだむん：涼む・
- ・ゆんがしまさん：かしましい。やかましい。
- ・いちゃしー^{くと}事：痛々しいこと。
- ・^う御話^{はなし}拜むん：(目上の人のお話を)聴く。

- ・^{ちむや}肝病むん：心を痛める。
- ・うさぎゆん：差し上げる。献上する。
- ・^はあま走いく^はま走い：あちこち駆けずり回ること。
- ・^{くら}暗ぞーりゆん：薄暗くなる。
- ・よーんなーよーんなー：ゆっくりゆっくり。
- ・まーすん：死ぬ。なくなる。
- ・^う御しじ^{めー}前：御霊の敬称。
- ・ちゃーる：どんな。
- ・^{ちむ}肝い^ちちゃん：心が痛む。
- ・^{うむ}思いが^{ちー}：思いながら。
- ・^{ぬー}何が^やら：どうしたのか。
- ・うんにーまんぐる：その頃。
- ・あなが^ちさん：なつかしい。
- ・^{ぬー}何^{ぞん}ぞん^や言らん：何とも言えない。
- ・^{やー}やーと^な成ゆん：静まる。また、ほっと安心する。
- ・^{わた}腸ぬ^ちる：おなかの筋。
- ・^{しー}じゃ^{かた}方：先輩たち。
- ・い^ふい^やそん：少しでも。

*本文では、語句は活用されていますので、ここに示しました語句とは必ずしも一致しておりません。

*参考文献

沖縄語辞典「国立国語研究所」

広辞苑「岩波書店」

新公用文用字用語例集「内閣総理大臣官房総務課監修」

事務局から

うちなーぐちの発音の難しさについても触れておりますので、音を聞いたり、声を出したりして練習を続けましょうね。

今回も、会員の花田匠子さんが描いた絵を入れました。素敵なタッチで描かれた絵をいただき、ありがとうございました。

この会報は、うちなーぐちにご関心があれば、会員以外の方でも投稿できます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。 國吉(眞)

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と [tu]	とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と [hwe]	とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
と [to]	とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ [he]	へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど [du]	どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や [?jal]*	やー(君、お前) やん(言わない)
ど [dol]	どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や ['jal]	やー(家) やん(である)
て [ti]	てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ [?jul]*	ゆん(言う)
て [te]	てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ ['jul]	ゆんたく(おしゃべり)
て [di]	ふて(筆) むてー(喉) てきやー(秀才)	よ [?jol]*	よーいー(おさな子)
で [de]	でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	よ ['jol]	よーんなー(ゆっくり)
ふ [kwa]	ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	あ [?wa]*	あー(豚) あーちち(天気)
か [ka]	かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ ['wa]	わーむん(私のもの)
ふ [gwa]	にんふん(念願) ふんく(頑固)	あ [?wi]*	あー(上) あーりきさん(面白い)
が [ga]	がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	み ['wi]	みきが(男) みなぐ(女)
く [kwi]	くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	系 [?we]*	系ーきー(金持ち) 系んちゆ(ねずみ)
き [ki]	きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	系 ['we]	うい系ー(お祝) わじゃ系ー(災い)
ぐ [gwi]	ぐーく(越来「地名」)	ん [?N]*	んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ [gi]	かーぎ(容ぼう)	ん ['N]	んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなと(港)
く [kwe]	くー(鍬) からじくー(髪きり虫)	い ['i]*	いん(縁) いだ(枝)
け [ke]	けー(かゆ) ちけー(使者)	い [?i]	いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
ぐ [gwe]	ぐったい(ぬかるみ)	を ['u]*	をと(夫) ちーじ(さとうきび)
げ [ge]	げー(害) にげー(願い)	う [?u]	うと(音) うーび(帯)
ふ [hwa]	ふー(葉) なーふ(那覇)	え ['e]*	えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は [ha]	はる(畑) はぎもー(荒地)	え [?e]	えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ [hwi]	ふじゃい(左) ふーと(いるか)	お [?o]	おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ [hi]	ひやみかすん(えい、と言う)	を ['o]	をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方 [?]は声門破裂音のあること、[']は声門破裂音のないことを示す。

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 とーい(鳥) ×とーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)